



【野尻の宿の七曲り】

宿場町は外敵からの侵入を防ぐために、櫓形といわれる鍵の手に道をつくっているところが多いのですが、野尻宿はカーブを曲がるとまたカーブの繰り返しという「七曲がり」と呼ばれています。木曾路では奈良井について街並みの長い宿場であり、曲がった数を数えながら歩いてみてはいかがでしょう。

今の宿場の家並みは寛政三年（1791年）と文政七年（1824年）（1791年）と文政七年（1824年）明治二十七年（1894年）に大火があり、比較的新しい家が並んでいます。高札場の跡には石垣が残っており、現在はその上には民家が建っています。石垣のそばには南無法蓮華経の碑があり、その台石はイボ石と呼ばれ、この石に触るとイボがとれると言われています。

【妙覚寺】

宿場の山側にある妙覚寺は、天台宗であったと言われていますが、現在は臨済宗妙心寺派で享保十一年（1727年）に建てられたものです。



高札場の跡

庭の小さな石室にある石仏は千手観音のようですが、左手に十字架のようなものを捧げているところから、マリア観音と呼ばれています。



マリア観音

【覚明様】

須佐男神社の参道脇に覚明堂は建っています。覚明は、この地で修業をしました。ある日覚明が「御嶽山を開山することができれば、再び帰ってくることもないため、お礼の印としてこれを授けるから受取ってください」と言って竹筒のお守りを渡し、「若しこのお守りを拝戴し無事出産が叶わなかったならば、このお守りを木曾川へ投棄してください」と言いのこし野尻を後にしたと伝えられたことから、「安産」の評判を伝え聞いて拝戴を行う者が多くなったと言われています。後に安産講という御嶽講が信徒たちによって組織されました。覚明堂の裏に



覚明堂

は、霊神碑が数多くみられ、パワースポットを感じさせる神秘的な場所です。

また、須佐男神社の社叢は村指定の天然記念物であり、参道付近はモリアオガエルの生息地でもあります。産卵時期は大変貴重で、ソフトボールサイズの白い泡が木陰の中で見え隠れしています。

【阿寺の渓谷と森林】

阿寺の清流は、どんなに雨が降っても濁ることがないと言われています。エメラルドグリーンの清流の源は、顔を洗うだけで美肌になるといふ伝説の湧水もあり、「美顔水」と言われています。



モリアオガエルの卵



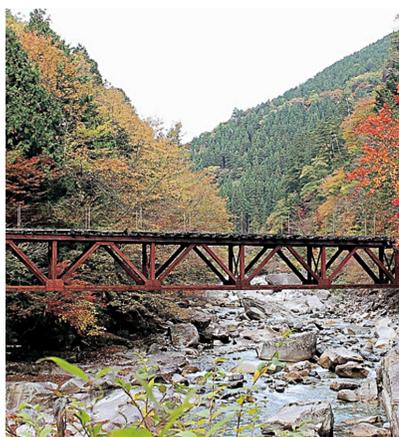
阿寺渓谷

皇室の財産であった御料林時代の明治二十二年（1889年）に木曾支所阿寺伐木事業所を設け、最も早く大正十二年

（1923年）野尻森林鉄道が引かれましたが、森林鉄道は当時の面影を残し昭和四十一年（1966年）六十余年の歴史に幕を下ろしました。

渓谷内には広大な木曾ヒノキの原生林が残り隣接の赤沢国有林とならんで木曾谷中でも指折りの美林として凛とした姿を残しています。

秋の紅葉も美しく、特にベニマンサクの真紅の紅葉は素晴らしく、清流との景観は心を癒してくれます。まさに、「阿寺渓谷」は「三大美」「美林」「美顔水」「美心」と渓谷の美を満喫し、訪れた人を楽ませてくれます。



今も残る森林鉄道跡

◆アクセス

【家用車】 中央自動車道中津川IC（国道19号線経由で約1時間）  
 【公共交通機関】 JR中央線野尻駅下車。

◆お問い合わせ

長野県木曾郡大桑村観光協会  
 TEL 0264-551-4566